

次期再犯防止推進計画素案に対する資料（第6回検討会用）

埼玉県立精神医療センター 依存症治療研究部 顧問
和田 清

I. 2022 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会（2022 年 9 月 8 日～9 月 10 日）

・わが国のアルコール関連医療を担う医療機関の現場の従事者を中心とする日本アルコール関連問題学会と、アルコールのみならずそれ以外の依存性薬物を含む薬物と嗜癖行動に関する医学を中心とする研究者（精神医学、内科学、法医学、薬学、心理学、保健福祉学等）による日本アルコール・アディクション医学会の合同学術総会である。

依存性薬物および嗜癖行動に関するわが国最大の専門学際的学術総会である。

・シンポジウムだけで計 30 が企画されたが、そのうち 4 つ（下記の通り）が、医療におけるアルコールを含めた薬物関連疾患に関わる者の質・量の圧倒的不足、他科どうしでの連携の欠如に関するもの、人材育成への危機に関するものであった。（趣旨は和田による。）

1. 日本アルコール・アディクション医学会

シンポジウム 5 「大学病院やその近辺で依存症に関わっていくということ」

趣旨：依存症対策の重要性が認識され、法整備等も講じられつつあるが、「肝心の人材育成が伴わないことには対策が十分に機能しない恐れがある。」

2. 日本アルコール・アディクション医学会＋日本総合病院精神医学会共催シンポジウム

「総合病院でのアルコール医療～多職種連携の取り組みと課題について考える～」

趣旨：総合病院の外来・入院患者の 30%前後が、アルコール使用障害を併存。しかし、有効なリエゾンの介入が行われていない。（アルコール以外の依存性薬物に関しては、そもそも、アルコールに関する連携の現状に遠く及ばない現状がある。）

3. 日本アルコール・アディクション医学会

シンポジウム 16 「アルコール診療を再考する～内科・精神科連携の重要性、チーム医療、そして地域医療の確立をめざして」

趣旨：テーマ通り。（アルコール以外の依存性薬物に関しては、そもそも、アルコールに関する連携の現状に遠く及ばない現状がある。）

4. 日本アルコール・アディクション医学会

シンポジウム 18 「アディクション臨床における後進育成、次世代への伝承」

趣旨：テーマ通り。

II. 「医師臨床研修指導ガイドライン」－2020 年度版－（厚労省医政局）

・精神科は＜必修分野＞に入っている（p. 10）と同時に、「精神科リエゾンチームでの研修を含むこと。」（p. 12）とされており、下記も規定されている。

・ p. 22 : 「経験すべき疾病・病態－26 疾病・病態－」

・ 「依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）」

・ p. 24 : 「その他（経験すべき診療法・検査・手技等）」

・ 「依存症などについては、患者個人への対応とともに、社会的な枠組みでの治療や予防の重要性を理解する必要がある」